

○ 本校の概要

- ・児童数:656名 学級数:19学級(令和3年4月6日現在)
- ・大森第二小学校と大森第六小学校が統合して「開校小学校」となり、今年度開校20周年を迎える。
- ・行事や学習を通して、地域に開かれ、共に進む学校を目指し、地域の特色を生かした教育活動を行っている。(町工場・商店街・こぼら大森の見学、内川学習、海苔つ体験、種魚放流体験、外国人留学生との交流、キャリア教育、園芸・読書ボランティアとの活動等)
- ・今年度は、新学習指導要領「学校の新しい生活様式」を踏まえ、「根拠を明確にして、自分の考えを表現する児童の育成」をテーマに授業研究に取り組んでいる。「授業スタイルにハンドサインを導入して、主体的に授業に取り組む雰囲気」を醸成していく。
- ・東京都教育委員会のコーディネーショントレーニング地域拠点校として取り組み始めた実践を継続していく。・7つの習慣の考え方を生かした学級指導、学年指導、学校経営を進めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価	人数	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	A4:「学校は楽しい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「自分の考えを伝えたり、様々な違いを尊重したりできる子供に育っている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇すべての児童にとって楽しい学校になることが、創造的に生きる力を育むことにつながると考え、次の3要素を必要として取り組んだ。 ①勉強がわかる・できる ②先生や友達とのかかわりが楽しい ③力をつける指導	A	8	-コロナの中では、タブレットの活用がおおいに役立っているのではないかと、今後も継続してもらいたい。 -コロナの中で様々な工夫をした取組をしていただけたと思う。 -コロナ禍の下、子供たちも先生方も様々な工夫されていたと感じます。		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					B		1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4			A4 B3					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。	2:						
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び、確かな学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	A4:当該学年の四則計算の定着度及び漢字検定の合格率が85%以上。 B4:「子供は基礎学力が身につけている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇校内研究「根拠を明確にして、自分の考えを表現する子供の育成」を主題にして、校内授業研究を年6本実施した。教師の指導力の向上を図った。	A	5	-オンライン授業に関しては、担任によって差があったように思う。 どの学校でもそうだが、ICT教育は教える側のレベルを統一するといふ課題が残されていると感じる。 -教師の指導がよく、児童の学力向上が多く見られる。		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3								
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。	2:	A4 B3					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	A2:70%以上。 B2:70%以上。	1:			◇児童にとって主体的で深い学びとなるように主発問を重視した授業づくりに取り組んだ。			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	開校小学習スタンダード(学習規律・学習用具)の定着を図り、タブレットを活用した授業を行った。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:	◇朝の読書タイムを週3回に実施し、開校小読書週間の取組と合わせて更に読書活動を促した。	D				
		小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	A4:開校小生活スタンダードの定着度が90%以上。 B4:「一人一人大切にされた教育が行われている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4:		◇開校小で学ぶ誰もが気持ちよく学校生活が送れるように「生活スタンダード」の一層の定着に取り組んだ。重点項目である挨拶については、目指すべき姿を示して自己評価をする挨拶検定や教員が認定する挨拶マスターの取組を通して、定着を図った。	A	9	-開校小の生活スタンダードを、是非継続してほしい。 -校長先生を先頭に、教職員の皆様が生活の軸になる事柄を丁寧に伝え、行動にも示していると共に、子供の目標で考えようとしてくださっているように思い、素晴らしいと思います。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2		3:	A3 B3		◇養護教諭による保健指導、オリンピック・パラリンピック教育や道徳の授業を通して、男女の違いやLGBT、障害者などの多様性について考える学習を実施した。	B		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。	2:			◇児童アンケートや面談をもとに、いじめや不登校の未然防止と早期発見に努め、保護者と連携して解決を図った。個別支援に関しては、定期的に教育相談委員会を通して、組織的に対応した。	C		
学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	1:			◇自他を大切に、互いに尊重する関係を構築し、教育活動に主体的に教職員一丸となって取り組んでいる。	D				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	A4:「運動することが好きである」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「健康教育の取組を推進している」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇新型コロナウイルス感染拡大のため、体育の授業、中休み、昼休みの活動を制限せざるを得なかった。その中で、創意工夫をし、水泳学習を実施した。	A	7	-コロナ禍の中、生活が崩れがちなため、体力をいかに保持していくかを考えて、今後も努力していきたい。 -制限のある中でも運動ができる環境だったと思う。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4		2:	A2 B4					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。 A2:70%以上。 B2:70%以上。	1:			◇オリンピック・パラリンピックに関しては、バミントンの桃田選手に応援メッセージを作成し、興味関心を深めた。終了後は、オリパラ教育の一貫で本校に來校した桃田選手と走り幅跳びの山本選手に、競技を見ての感想も含めたメッセージを作成した。		C	
		東京2020オリンピック・パラリンピック開催前後、教材として教育活動を行った。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。				◇東京オリンピック・パラリンピックの取組をレガシーとして継続していく。		D	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A4:「授業が楽しくわかりやすい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「学習活動を工夫して、わかりやすく教えている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇新学習指導要領の趣旨を生かした授業を新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら実践した。	A	8	-コロナ感染防止等、厳しい中でも職員の方々の細やかな努力があり、よかったですと思います。		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		3:			◇様々な年次研修や教育課程研修会の参加による授業公開や報告会を行い、教員全体の指導力向上に取り組んだ。		B	1
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	2:	A3 B3		◇学習や行事にICT機器を積極的に活用し、効果的な指導を積み重ねた。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	1:			◇特別支援教育に関する校内委員会を月2回行い、情報及び指導法の共有の充実を図った。		C	
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割にしっかりと対応し、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割にしっかりと対応し、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	校内研究「根拠を明確にして、自分の考えを表現する児童の育成」及び各種校内研修をもとに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。		◇今年度の取組を継続することを基本とし、状況を見て最先課題を判断し、時期を感ずることなく取組を行っている。	D				
		教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	A4:「学校は積極的に情報発信している」とアンケートで回答した保護者の割合が95%以上。 B4:「地域や外部人材を活用した学習を推進している」と回答した保護者の割合が95%以上。	4: 3:			◇保護者・PTA・地域連絡協議会に皆様の協力により、開校20周年記念式典を無事に開催することができた。	A	8	-全体的にコロナで大変だと思うが、子供たちの笑顔のために頑張っていて、地道な一員として、協力したい。 -コロナ禍なので、書面等で連絡を取るしかないと思われ。 -各行事や学校公開等が中止になったり、人数制限を設けたり、オンラインでの実施になったことで、学校評価が難しく、評価がしにくかった。しかし、それはやむを得ないことで、一番は学校の教育活動が安全に行われることが大切なので、十分理解している。その中でも、開校20周年記念式典が来賓を含め、開催してもらえて良かった。 -厳しい条件が続く中でも、様々な工夫と協力で、地域ボランティア等とのネットワークづくりに心をかけてくださり、素晴らしいと思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね」情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3		2:			◇「地域に開かれた学校」の高い評価の維持を目指し、できる限り今年度も情報発信に努めた。	B	1	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	A3:90%以上。 B3:90%以上。	1:			◇個人情報を大切にしながらも情報はスピード感をもって発信する。児童を真ん中において、学校、家庭、地域が更に相互の信頼を深める取組を考え、実践していく。	C		
地域の歴史やよさを理解し、教育実践に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A2:80%以上。 B2:80%以上。					D				
プラン7 保護者と連携した学習を実施し、家庭との連携の充実を図る。	保護者と連携した学習を実施し、家庭との連携の充実を図る。	4:「連携が図れた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	A1:80%未満。 B1:80%未満。								

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。